

2011年3月11日14時46分 東日本大震災に見舞われて



福島県医師会会長

高谷 雄三

この度の東日本大震災に遭われた医師会の会員の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。かつてないマグニチュード9.0の地震に続き想像を絶する高さの津波に襲われ、あっというまもなく港が、街が、診療所が、自宅が被災され地域のかかりつけ医として住民の信頼を得られ様々な医療・保健に日夜努力されてこられました努力が一瞬にして自然災害の前に中断を余儀なくされたご無念を思う時、心中察するに有り余るものがあり、誠に心が痛みます。

更に翌日には福島第1原子力発電

所の1号機の建屋爆発事故が起こり、放射性物質飛散による圏域内避難指示により、取るものも取り敢えず退去を余儀なくされました。幸い地震津波による会員の死亡、行方不明者もなく安堵しましたが、生活の拠点を失い、避難所生活と避難所に於いてのボランティア医師活動に従事されている役員・会員の方もおられ頭の下がる思いです。県医師会として国・県・日本医師会に対し、出来得る限りの支援を要請し、支援をお願いし続けていかねばならないと肝に命じて活動して参る覚悟

です。

特に太平洋沿岸の新地町、相馬市、南相馬市、小高地区、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市の被害は甚大であります。家屋全壊、半壊、床上浸水・床下浸水、地盤沈下、家屋の傾き、停電・断水、停ガスなどの生活基盤の崩壊、診療所での医療機器の破損、塩水による電子機器の破損、データ破壊、更にはカルテ等の流失・逸失・汚損など診療報酬請求すら無理な事態になりました。

報道が少なく実態が見えないきらいがありますが、福島・郡山・白河に至る東北新幹線沿いの建物被害も深刻な様相を呈している事を心に留めておいて下さい。

被災後1カ月以上経ちますがマグニチュード3以上の余震が頻発し、3月11日の被災に輪を掛ける損害をもたらし、心胆を寒むからしめ心休まる暇もありません。原発事故は収束する気配が見えず、避難命令・屋内退避指示で家を離れ、早く元の

生活に戻れるかと期待を寄せていたのに、更に計画的避難区域と緊急時避難準備区域が設定され、かすかな希望を抱いていた町・村にも集団移転の非情な指令が下されようとしています。終わりの無い始まりが福島県内さらには近県に及ぶと予想されます。これから長い遠い道のりが待っており、当分復旧・復興の目途すら立ちません。県や日医に働きかけ政府に働きかけたいと思いますが、迷走する政府に解決策があるのか疑問であり、この国に世界に伍していくリーダーが必要なのは自明の理ですが、それすら伺えません。地震・津波・原発事故を見事に乗り越えられるかどうか全世界から注視されている事を肝に銘じ、「前へ前向きに」、将来を背負う子どもたちに負の遺産を残さないよう叡智を集めて進んで頂きたいと願うものです。意を尽くせぬもどかしさを感じながら会員の皆様とともに復興へ向けて歩いていきたいと誓うものです。

ノー モア ふくしま!!